



南葵音楽図書館は、突如日本に出現した西洋製本の博物館でもあった。別棟の製本室で若き庄司浅水は西洋製本の歴史と技術を学び、実践し、製本文化に貢献。今回は装幀面からの南葵所蔵本解説入門。



<参考事例> 庄司浅水『日本の書物』

1a 創元選書版 168,9p 創元社 1954

1b モロッコ革自装 特装版 限定 120 部 私家版 1954

2a 美術選書版 254p 美術出版社 1978 本図書館書庫 K020.2/78/78

2b 限定版 225 部 同社同年 総革装金泊押し 夫婦箱空押し  
見返しマーブル紙 天金

南葵音楽文庫  
和歌山県立図書館内  
和歌山市西高松 1-7-38  
tel. 073-436-9500

装幀 ブックデザイン ルリユール reliure の違い

< 判型 版面はんづら 書体 本文用紙の指定など <一冊単位 修復にも近似

\*装幀は多くの場合造本上の実用性からも重要な機能をもっている

◆ 表紙とタイトル文字 口絵(扉絵) frontispiece とヴィニェット vignette



製本とは：書物を保護し装飾するアート(技術/芸術)  
書物とは、手書きまたは印刷された文書譜面等の束を、読んだり調べたりするのに便利のように順序正しく綴じたもの。

そのための技術を製本とよび、文書等の長い保存を可能にすると共に見栄えを良くし、もって著述者、提供者、享受者の間の知的、感性的コミュニケーションを促す業をいう。

その洗練である装幀は、内容への尊崇や、流通、所有にたいする願望から開発され、しばしば装飾芸術を指向してきた。

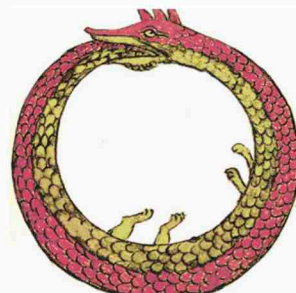
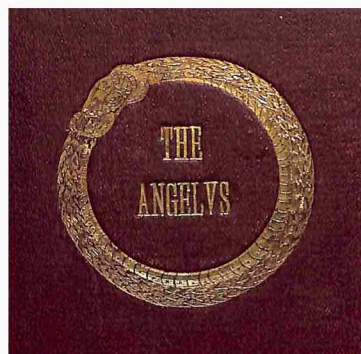
◆ 装幀のための革 皮(羊、山羊、牛、子牛、豚・・・)から革へ

材料：モロッコ革(山羊) 手触り 薄く耐久性あり 羊皮紙 など  
方法：総革 背革 角革

◆ 装幀のための紙 多種多用途

マーブル紙

◆ 箔押し 例 ネイラー《アンゲルス》



自己言及 [ウロボロス] の表徴

南葵音楽文庫は 16 世紀から 20 世紀に至る西洋装幀の多様な遺産が揃う国内で希少な場